

報道発表資料

2020年3月5日

日本空港無線サービス株式会社

那覇空港第2滑走路供用に向けた空港MCA設備増強完了について

日本空港無線サービス株式会社（本社：千葉県成田市、代表取締役社長：高橋禎一、以下NAR）は、2020年3月26日の那覇空港第2滑走路供用開始に向けて、空港MCA無線サービスの無線設備増強工事を実施し、今後想定される業務量の増加に対応可能な通信容量を確保いたしました。

NARは1980年より同空港における無線サービスを提供し、2017年には、空港MCA無線システムのTETRAへの更改によりサービスの信頼性と利便性を高めており、一貫して空港の業務と安心・安全を支えてまいりました。その後、業務エリアの拡大やターミナル拡張に対応した設備拡張を順次行ってまいりましたが、今般、第2滑走路の供用が開始されることから、今後の就航数・旅客数増加に伴う通話トラフィックの増加を想定した基地局の増強工事を事前に進め、電波免許の更新が完了した3月2月をもって運用を開始いたしました。また、第2滑走路エリア全体における電波強度の確認、新管制塔における無線端末設備設置についても完了しています。

NARは2016年に成田国際空港、2017年に那覇空港、2019年に中部国際空港において、旧MCA無線システムを国際標準のTETRAシステムに更改し運用を行っており、そのサービスの信頼性・品質の高さや無線端末の堅牢性・利便性等は高い評価を得ています。また、一昨年来の台風や地震による空港の被害を踏まえ、空港の災害対策が求められる中、災害時にも安定したサービスを提供してきた空港専用の無線基盤の重要性が高まっています。

NARは、引き続き安定的なシステム運用に努めるとともに、利用者の業務に対応した端末や電波環境等の改善をきめ細やかに実施し、サービスの利便性を高め、空港の発展とさらなる安心・安全の向上に寄与してまいります。